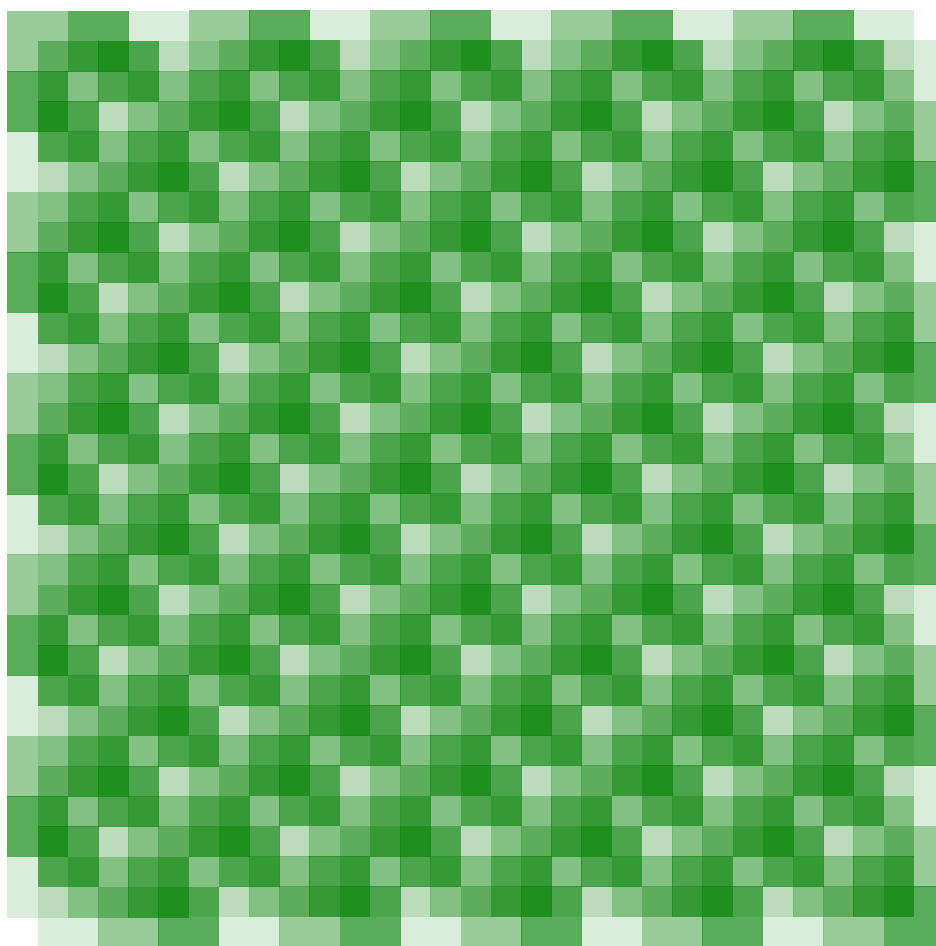


みどりの食料システム戦略推進交付金 取組事例集 (2023年度版 Ver.1.0)



令和5年12月

農林水産省

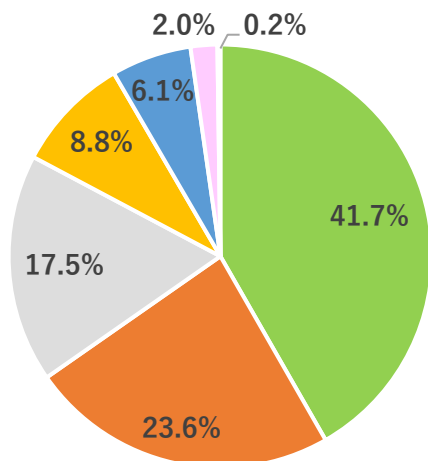
令和3年5月に策定された「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて措置された「みどりの食料システム戦略推進交付金」は、令和5年度で3年目を迎えました。

本事例集は、令和3年度補正予算から令和5年度当初予算を活用し全国各地で実施された、資材・エネルギーの調達から農林水産物の生産、加工・流通、消費に至るまでの環境負荷低減と持続的発展に向けて取り組んだ事例を取りまとめたものです。

是非多くの生産者の方々をはじめ、関係者の皆様に各地の事例をご覧いただき、今後みどりの取組を始めようとする地域の参考としてご活用いただければ幸いです。

みどりの食料システム戦略推進交付金の活用状況 (R5.12月現在)

取組メニュー別割合



グリーンな栽培体系への転換サポート

それぞれの産地に適した「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を取り入れた「グリーンな栽培体系」への転換を推進するため、産地に適した技術を検証し、定着を図る取組を支援します。

有機農業産地づくり推進

有機農業の団地化や学校給食等での利用など、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻きこんで推進する取組の試行や体制づくりを推進します。

有機転換推進事業

新たに有機農業を開始する農業者に対して支援します。

推進体制整備

地方自治体、地域の生産者、事業者、大学・研究機関やシンクタンク等が連携して行うビジョン・計画策定に向けた調査・検討、有機農業指導員の育成・確保等を支援します。

バイオマス産地地消対策

地域のバイオマスを活用したエネルギー産地地消の実現に向けた調査・施設整備を支援するとともに、バイオ液肥の地域内利用を進めるため、液肥散布車の導入やバイオ液肥の散布実証のための取組を支援します。

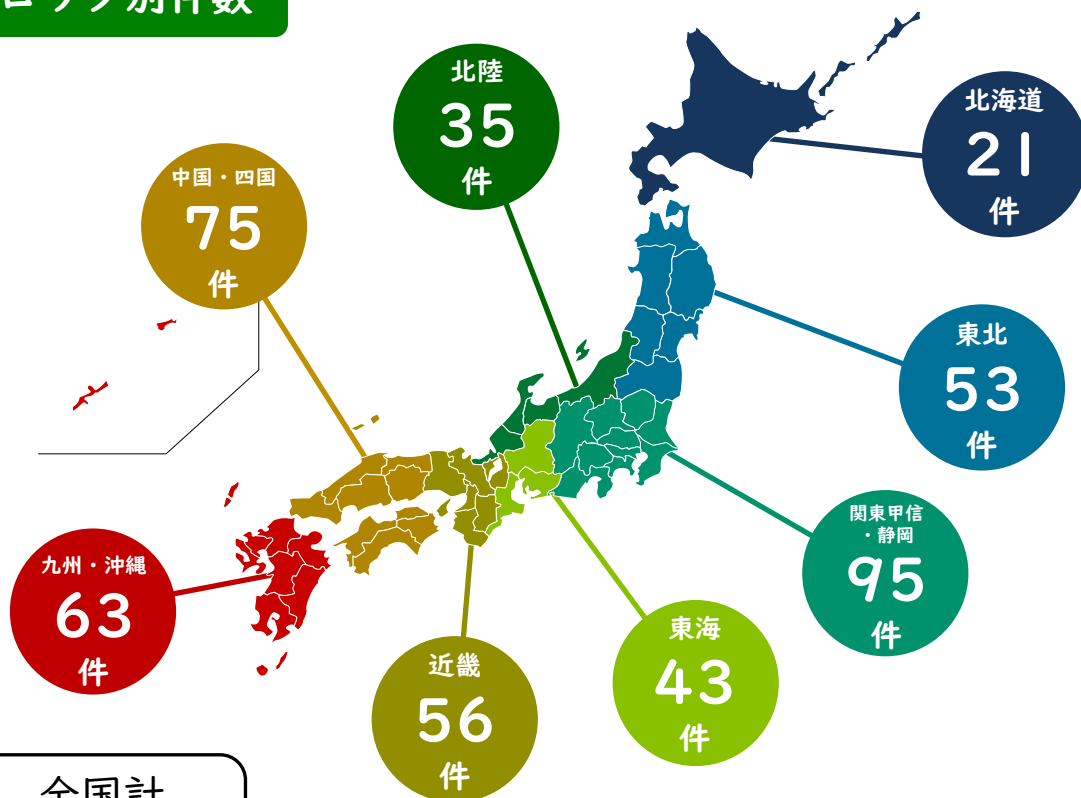
地域循環型エネルギーシステム構築

地域の再生エネルギー資源を活用した地域循環型エネルギーシステムの構築のための営農型太陽光発電や未利用資源のエネルギー利用を推進します。

SDGs対応型施設園芸確立

環境負荷軽減の技術を活用した持続可能な施設園芸への転換を促進するため、SDGsに対応し、環境負荷軽減と収益性向上を両立したモデル産地を育成する取組を支援します。

地域ブロック別件数



※ 要望調査(令和4年12月から令和5年11月にかけて8回実施)に基づき配分した事業実施計画数であり、事業を実施した件数と異なる場合があります。

取組事例目次（地域別）

< 令和3年度補正予算・令和4年度当初予算 >

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
北海道					
01	津別町	北海道津別町	バイオマス	—	14
東北					
02	青森県	青森県十和田地区、六戸地区	グリサポ	ながいも	15
03	大崎市有機農業・グリーン化推進協議会	宮城県大崎市	グリサポ	水稻	16
04	雄勝ICT協議会	秋田県湯沢市	グリサポ	ねぎ	17
05	かわにしオーガニックビレッジ推進協議会	山形県川西町	有機	えだまめ	18
06	福島県会津農林事務所農業振興普及部	福島県会津若松市	グリサポ	水稻	19
関東甲信・静岡					
07	神栖市営農型太陽光発電検討協議会	茨城県神栖市	地域循環	ピーマン、かんしょ	20
08	小山市有機農業推進協議会	栃木県小山市	有機	水稻	21
09	栃木県	栃木県真岡市	グリサポ	なす（露地）	22
10	群馬県	群馬県渋川市、安中市、 富岡市、東吾妻町、昭和村	グリサポ	こんにゃくいも	23
11	小川町有機農業推進協議会	埼玉県小川町	有機	露地野菜	24
12	びわ再生協議会	千葉県南房総市、館山市、鋸南町	グリサポ	びわ	25
13	千葉市SDGs対応型施設園芸推進協議会	千葉県千葉市	SDGs	いちご	26
14	株式会社Jバイオフードリサイクル	神奈川県横浜市	バイオマス	—	27
15	山梨県	山梨県全域	グリサポ	ぶどう、もも等（露地）	28
16	長野県	長野県長野市	グリサポ	きゅうり（施設）	29
17	富士山麓堆肥利用促進協議会	静岡県沼津市、富士宮市、 富士市、長泉町	グリサポ	茶	30
北陸					
18	県央農業振興会議新潟米振興部会	新潟県弥彦村	グリサポ	水稻	31
19	新潟市農業SDGs協議会	新潟県新潟市	グリサポ	水稻	32
20	呉羽梨産地活性化委員会議会	富山県富山市、射水市 （呉羽梨栽培地域）	グリサポ	日本なし	33
21	南砺市	富山県南砺市	有機	水稻、野菜 等	34
22	羽咋市みどりの食料システム戦略推進協議会	石川県羽咋市	グリサポ	水稻	35
23	野々市市上林環境農業協議会	石川県野々市市	グリサポ	水稻	36
24	坂井地区園芸タウン推進協議会	福井県坂井市、あわら市	グリサポ	ねぎ	37
25	奥越地区園芸タウン推進協議会	福井県大野市、勝山市	グリサポ	さといも	38
東海					
26	白川町有機の里づくり協議会	岐阜県白川町	有機	水稻、露地野菜	39
27	株式会社ビオクラシックス半田	愛知県半田市	バイオマス	—	40
28	イチゴ減農薬減化学肥料栽培推進協議会	三重県津市	グリサポ	いちご（施設高設栽培）	41
近畿					
29	琵琶湖もりやまフルーツランド グリーン転換協議会	滋賀県守山市	グリサポ	日本なし	42
30	亀岡市有機農業推進協議会	京都府亀岡市	有機	水稻、野菜	43
31	大阪府	大阪府河南町、千早赤阪村、 富田林市	グリサポ	いちご	44
32	丹波市有機の里づくり推進協議会	兵庫県丹波市	有機	水稻、野菜等	45
33	丹波篠山ワクワク農都づくり協議会	兵庫県丹波篠山市	有機	水稻、黒大豆、野菜	46
34	淡路市有機農業産地づくり協議会	兵庫県淡路市	有機	ハーブ野菜、たまねぎ、水稻	47
35	豊岡市	兵庫県豊岡市	有機	水稻、野菜	48
36	養父市	兵庫県養父市	有機	水稻、野菜	49
37	宇陀市伊那佐東部地区グリーンサポート協議会	奈良県宇陀市	グリサポ	野菜	50
38	和歌地方スマート農業推進協議会	和歌山県和歌山市、海南市、 海草郡紀美野町	グリサポ	とうもろこし、レタス	51

(計画段階の事例紹介であり、取組時点で内容を変更する場合があります。)

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
中国・四国					
39	鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会	鳥取県	グリサポ	水稻、日本なし、施設野菜 (すいか、いちご)、露地野菜 (スイートコーン、にんじん等)	52
40	浜田市農業再生協議会	島根県浜田市	有機	水稻、野菜	53
41	真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合	岡山県真庭市	バイオマス	—	54
42	神石高原有機農業推進協議会	広島県神石郡神石高原町	有機	水稻、野菜	55
43	長門市未来農業創造協議会	山口県長門市	有機	野菜	56
44	阿南市みどりの食料システム推進協議会	徳島県阿南市	グリサポ	いちご、かんきつ、きゅうり	57
45	香川県西讃地区環境にやさしい農業推進協議会	香川県観音寺市、三豊市	グリサポ	レタス	58
46	愛媛県	愛媛県鬼北町	グリサポ	ゆず	59
47	施設園芸グリーン化促進協議会	高知県須崎市	SDGs	ししとう	60
48	高知県	高知県芸西村	グリサポ	トルコギキョウ(施設)	61
九州					
49	JA福岡大城みどりの食料システム戦略推進協議会	福岡県大川市、三潴郡大木町、 久留米市城島町	グリサポ	大豆	62
50	伊万里西松浦地区グリーンな栽培体系推進協議会	佐賀県伊万里市(南波多地区、 大川地区、松浦地区)	グリサポ	日本なし、ぶどう(施設)	63
51	島原地域農業振興協議会	長崎県雲仙市南串山町・小浜町、 南島原市南有馬町	グリサポ	ばれいしょ	64
52	山都町	熊本県上益城郡山都町	有機	いも類、露地野菜、水稻	65
53	「ほんまもの里・うすき」農業推進協議会	大分県臼杵市	有機	露地野菜	66
54	綾町自然生態系農業推進会議	宮崎県東諸県郡綾町	有機	露地野菜	67
55	南種子町有機農業推進協議会	鹿児島県熊毛郡南種子町	有機	いも類、露地野菜	68
沖縄					
56	株式会社八重瀬堆肥センター	沖縄県八重瀬町	バイオマス	—	69

※取組メニュー凡例

グリサポ : グリーンな栽培体系への転換サポート
有機 : 有機農業産地づくり推進
バイオマス : バイオマス地産地消対策
地域循環 : 地域循環型エネルギーシステム構築
SDGs : SDGs対応型施設園芸確立

取組事例目次（地域別）

< 令和4年度補正予算・令和5年度当初予算 >

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
北海道					
57	新ひだか町みどりの食料システム推進協議会	北海道新ひだか町	グリサボ	ミニトマト、デルフィニウム	71
東北					
58	黒石市	青森県黒石市	有機	水稲、そば、にんじん	72
59	一関地方有機農業推進協議会	岩手県一関市、平泉町	有機	水稲、野菜	73
60	岩手県	岩手県盛岡市	グリサボ	水稲	74
61	東北発電工業株式会社	宮城県加美町、大郷町、石巻市	地域循環	—	75
62	にかほ市	秋田県にかほ市	グリサボ	水稲	76
63	鶴岡田川地域グリーンな栽培体系推進協議会	山形県鶴岡市	グリサボ	おうとう、かき	77
64	喜多方市環境にやさしい農業推進協議会	福島県喜多方市	有機	水稲	78
関東甲信・静岡					
65	常陸大宮市	茨城県常陸大宮市	有機	水稲、野菜	79
66	株式会社バイオストック	群馬県高崎市	バイオマス	—	80
67	さいたま市施設トマトグリーン栽培協議会	埼玉県さいたま市	グリサボ	トマト（施設） 果樹（キウイフルーツ、 みかん等）、露地野菜、水稲	81
68	小田原有機の里づくり協議会	神奈川県小田原市	有機	みかん等）、露地野菜、水稲	82
69	松川町	長野県松川町	有機	露地野菜、水稲 等	83
70	川根本町	静岡県川根本町	有機	茶	84
北陸					
71	新発田市有機農業産地づくり推進協議会	新潟県新発田市	有機	水稲	85
72	富山市有機農業推進協議会	富山県富山市	有機	水稲、雑穀（えごま）	86
73	珠洲市オーガニックビレッジ協議会	石川県珠洲市	有機	水稲	87
74	越前市有機農業産地づくり推進協議会	福井県越前市	有機	水稲	88
東海					
75	グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会	岐阜県高山市	グリサボ	パプリカ（施設）	89
76	東郷町	愛知県愛知郡東郷町	有機	水稲、野菜	90
77	尾鷲市	三重県尾鷲市	有機	果樹、露地野菜	91
近畿					
78	J Aグリーン近江オーガニック研究会	滋賀県蒲生郡日野町	グリサボ	水稲	92
79	中丹米振興協議会	京都府福知山市、舞鶴市、綾部市	グリサボ	水稲	93
80	加東市農業再生協議会	兵庫県加東市	有機	水稲	94
81	上郡町	兵庫県上郡町	有機	水稲 等	95
82	K O B Eオーガニック推進協議会	兵庫県神戸市	有機	野菜、水稲 等	96
83	朝来市	兵庫県朝来市	有機	水稲、野菜 等	97
84	宇陀市	奈良県宇陀市	有機	野菜、水稲	98
85	かつらぎ町	和歌山県かつらぎ町	有機	うめ、かき、キウイフルーツ	99
中国・四国					
86	鳥取県西部地区営農型発電導入検討協議会	鳥取県境港市	地域循環	白ねぎ 等	100
87	江津市	島根県江津市	有機	水稲、野菜	101
88	かぶとバイオファーム合同会社	岡山県笠岡市	バイオマス	—	102
89	世羅町循環型農業推進協議会	広島県世羅町	グリサボ	水稲	103
90	海陽町オーガニックス	徳島県海部郡海陽町	有機	水稲、にんじん、 なす、たまねぎ	104
91	香川県グリーン農業コンソーシアム	香川県高松市	グリサボ	いちご（施設）	105
92	今治市	愛媛県今治市	有機	水稲、野菜、果樹	106

(計画段階の事例紹介であり、取組時点で内容を変更する場合があります。)

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
九州					
93	うきは市グリーン栽培検討協議会	福岡県うきは市	グリサポ	かき、ぶどう、日本なし、ドラゴンフルーツ	107
94	県央地域農業振興協議会	長崎県諫早市、大村市、東彼杵町、川棚町、波佐見町	グリサポ	ブロッコリー（露地）	108
95	南阿蘇村	熊本県阿蘇郡南阿蘇村	有機	水稲、そば、ごま、にんにく	109
96	豊後高田市有機農業推進協議会	大分県豊後高田市	有機	いも類、露地野菜、水稲	110
97	双日株式会社	宮崎県川南町	バイオマス	資源作物（ソルガム）	111
98	和泊町グリーン化推進協議会	鹿児島県大島郡和泊町	グリサポ	きく（施設）	112
沖縄					
99	土どう宝協議会	沖縄県南風原町	グリサポ	きゅうり（施設）	113

※取組メニュー凡例

グリサポ：グリーンな栽培体系への転換サポート

有機：有機農業産地づくり推進

バイオマス：バイオマス地産地消対策

地域循環：地域循環型エネルギーシステム構築

SDGs：SDGs対応型施設園芸確立

取組事例目次（品目別）

< 令和3年度補正予算・令和4年度当初予算 >

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
水田作					
03	太崎市有機農業・グリーン化推進協議会	宮城県大崎市	グリサポ	水稲	16
06	福島県会津農林事務所農業振興普及部	福島県会津若松市	グリサポ	水稲	19
08	小山市有機農業推進協議会	栃木県小山市	有機	水稲	21
18	県央農業振興会議新潟米振興部会	新潟県弥彦村	グリサポ	水稲	31
19	新潟市農業SDGs協議会	新潟県新潟市	グリサポ	水稲	32
21	南砺市	富山県南砺市	有機	水稲、野菜 等	34
22	羽咋市みどりの食料システム戦略推進協議会	石川県羽咋市	グリサポ	水稲	35
23	野々市市上林環境農業協議会	石川県野々市市	グリサポ	水稲	36
26	白川町有機の里づくり協議会	岐阜県白川町	有機	水稲、露地野菜	39
30	亀岡市有機農業推進協議会	京都府亀岡市	有機	水稲、野菜	43
32	丹波市有機の里づくり推進協議会	兵庫県丹波市	有機	水稲、野菜等	45
33	丹波篠山ワクワク農都づくり協議会	兵庫県丹波篠山市	有機	水稲、黒大豆、野菜	46
34	淡路市有機農業産地づくり協議会	兵庫県淡路市	有機	ハーブ野菜、たまねぎ、水稲	47
35	豊岡市	兵庫県豊岡市	有機	水稲、野菜	48
36	養父市	兵庫県養父市	有機	水稲、野菜	49
39	鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会	鳥取県	グリサポ	水稲、日本なし、施設野菜 (すいか、いちご)、露地野菜 (スイートコーン、にんじん等)	52
40	浜田市農業再生協議会	島根県浜田市	有機	水稲、野菜	53
42	神石高原有機農業推進協議会	広島県神石郡神石高原町	有機	水稲、野菜	55
52	山都町	熊本県上益城郡山都町	有機	いも類、露地野菜、水稲	65
畑作					
07	神栖市営農型太陽光発電検討協議会	茨城県神栖市	地域循環	ピーマン、かんしょ	20
33	丹波篠山ワクワク農都づくり協議会	兵庫県丹波篠山市	有機	水稲、黒大豆、野菜	46
49	J A福岡大城みどりの食料システム戦略推進協議会	福岡県大川市、三潴郡大木町、 久留米市城島町	グリサポ	大豆	62
51	島原地域農業振興協議会	長崎県雲仙市南串山町・小浜町、 南島原市南有馬町	グリサポ	ばれいしょ	64
52	山都町	熊本県上益城郡山都町	有機	いも類、露地野菜、水稲	65
55	南種子町有機農業推進協議会	鹿児島県熊毛郡南種子町	有機	いも類、露地野菜	68
野菜					
02	青森県	青森県十和田地区、六戸地区	グリサポ	ながいも	15
04	雄勝ICT協議会	秋田県湯沢市	グリサポ	ねぎ	17
05	かわにしオーガニックビレッジ推進協議会	山形県川西町	有機	えだまめ	18
07	神栖市営農型太陽光発電検討協議会	茨城県神栖市	地域循環	ピーマン、かんしょ	20
09	栃木県	栃木県真岡市	グリサポ	なす(露地)	22
11	小川町有機農業推進協議会	埼玉県小川町	有機	露地野菜	24
13	千葉市SDGs対応型施設園芸推進協議会	千葉県千葉市	SDGs	いちご	26
16	長野県	長野県長野市	グリサポ	きゅうり(施設)	29
21	南砺市	富山県南砺市	有機	水稲、野菜 等	34
24	坂井地区園芸タウン推進協議会	福井県坂井市、あわら市	グリサポ	ねぎ	37
25	奥越地区園芸タウン推進協議会	福井県大野市、勝山市	グリサポ	さといも	38
26	白川町有機の里づくり協議会	岐阜県白川町	有機	水稲、露地野菜	39
28	イチゴ減農薬減化学肥料栽培推進協議会	三重県津市	グリサポ	いちご(施設高設栽培)	41
30	亀岡市有機農業推進協議会	京都府亀岡市	有機	水稲、野菜	43
31	大阪府	大阪府河南町、千早赤阪村、 富田林市	グリサポ	いちご	44
32	丹波市有機の里づくり推進協議会	兵庫県丹波市	有機	水稲、野菜等	45
33	丹波篠山ワクワク農都づくり協議会	兵庫県丹波篠山市	有機	水稲、黒大豆、野菜	46
34	淡路市有機農業産地づくり協議会	兵庫県淡路市	有機	ハーブ野菜、たまねぎ、水稲	47
35	豊岡市	兵庫県豊岡市	有機	水稲、野菜	48
36	養父市	兵庫県養父市	有機	水稲、野菜	49
37	宇陀市伊那佐東部地区グリーンサポート協議会	奈良県宇陀市	グリサポ	野菜	50
38	和歌山県和歌山市、海南市、 海草郡紀美野町	和歌山県和歌山市、海南市、 海草郡紀美野町	グリサポ	とうもろこし、レタス	51

(計画段階の事例紹介であり、取組時点で内容を変更する場合があります。)

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
野菜					
39	鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会	鳥取県	グリサポ	水稻、日本なし、施設野菜 (すいか、いちご)、露地野菜 (スイートコーン、にんじん等)	52
40	浜田市農業再生協議会	島根県浜田市	有機	水稻、野菜	53
42	神石高原有機農業推進協議会	広島県神石郡神石高原町	有機	水稻、野菜	55
43	長門市未来農業創造協議会	山口県長門市	有機	野菜	56
44	阿南市みどりの食料システム推進協議会	徳島県阿南市	グリサポ	いちご、かんきつ、きゅうり	57
45	香川県西讃地区環境にやさしい農業推進協議会	香川県観音寺市、三豊市	グリサポ	レタス	58
47	施設園芸グリーン化促進協議会	高知県須崎市	SDGs	ししとう	60
52	山都町	熊本県上益城郡山都町	有機	いも類、露地野菜、水稻	65
53	「ほんまものの里・うすき」農業推進協議会	大分県臼杵市	有機	露地野菜	66
54	綾町自然生態系農業推進協議会	宮崎県東諸県郡綾町	有機	露地野菜	67
55	南種子町有機農業推進協議会	鹿児島県熊毛郡南種子町	有機	いも類、露地野菜	68
花き					
48	高知県	高知県芸西村	グリサポ	トルコギキョウ(施設)	61
果樹					
12	びわ再生協議会	千葉県南房総市、館山市、鋸南町	グリサポ	びわ	25
15	山梨県	山梨県全域	グリサポ	ぶどう、もも等(露地)	28
20	呉羽梨産地活性化委員会	富山県富山市、射水市 (呉羽梨栽培地域)	グリサポ	日本なし	33
29	琵琶湖もりやまフルーツランド グリーン転換協議会	滋賀県守山市	グリサポ	日本なし	42
39	鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会	鳥取県	グリサポ	水稻、日本なし、施設野菜 (すいか、いちご)、露地野菜 (スイートコーン、にんじん等)	52
44	阿南市みどりの食料システム推進協議会	徳島県阿南市	グリサポ	いちご、かんきつ、きゅうり	57
46	愛媛県	愛媛県鬼北町	グリサポ	ゆず	59
50	伊万里西松浦地区グリーンな栽培体系推進協議会	佐賀県伊万里市(南波多地区、 大川地区、松浦地区)	グリサポ	日本なし、ぶどう(施設)	63
地域特産物					
10	群馬県	群馬県渋川市、安中市、 富岡市、東吾妻町、昭和村	グリサポ	こんにゃくいも	23
茶					
17	富士山麓堆肥利用促進協議会	静岡県沼津市、富士宮市、 富士市、長泉町	グリサポ	茶	30
その他					
01	津別町	北海道津別町	バイオマス	—	14
14	株式会社Jバイオフーズリサイクル	神奈川県横浜市	バイオマス	—	27
27	株式会社ビオクラシックス半田	愛知県半田市	バイオマス	—	40
41	真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合	岡山県真庭市	バイオマス	—	54
56	株式会社八重瀬堆肥センター	沖縄県八重瀬町	バイオマス	—	69

※取組メニュー凡例

グリサポ : グリーンな栽培体系への転換サポート
有機 : 有機農業産地づくり推進
バイオマス : バイオマス産地消対策
地域循環 : 地域循環型エネルギーシステム構築
SDGs : SDGs対応型施設園芸確立

取組事例目次（品目別）

< 令和4年度補正予算・令和5年度当初予算 >

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
水田作					
58	黒石市	青森県黒石市	有機	水稲、そば、にんじん	72
59	一関地方有機農業推進協議会	岩手県一関市、平泉町	有機	水稲、野菜	73
60	岩手県農業研究センター	岩手県盛岡市	グリサボ	水稲	74
61	東北発電工業株式会社	宮城県加美町、大郷町、石巻市	地域循環	—	75
64	喜多方市環境にやさしい農業推進協議会	福島県喜多方市	有機	水稲	78
65	常陸大宮市	茨城県常陸大宮市	有機	水稲、野菜	79
68	小田原有機の里づくり協議会	神奈川県小田原市	有機	果樹（キウイフルーツ、みかん等）、 露地野菜、水稲	82
69	松川町	長野県松川町	有機	露地野菜、水稲 等	83
71	新発田市有機農業産地づくり推進協議会	新潟県新発田市	有機	水稲	85
72	富山市有機農業推進協議会	富山県富山市	有機	水稲、雑穀（えごま）	86
73	珠洲市オーガニックビレッジ協議会	石川県珠洲市	有機	水稲	87
74	越前市有機農業産地づくり推進協議会	福井県越前市	有機	水稲	88
76	東郷町	愛知県愛知郡東郷町	有機	水稲、野菜	90
78	J A グリーン近江オーガニック研究会	滋賀県蒲生郡日野町	グリサボ	水稲	92
79	中丹米振興協議会	京都府福知山市、舞鶴市、綾部市	グリサボ	水稲	93
80	加東市農業再生協議会	兵庫県加東市	有機	水稲	94
81	上郡町	兵庫県上郡町	有機	水稲 等	95
82	K O B E オーガニック推進協議会	兵庫県神戸市	有機	野菜、水稲 等	96
83	朝来市	兵庫県朝来市	有機	水稲、野菜 等	97
84	宇陀市	奈良県宇陀市	有機	野菜、水稲	98
87	江津市	島根県江津市	有機	水稲、野菜	101
89	世羅町循環型農業推進協議会	広島県世羅町	グリサボ	水稲	103
90	海陽町オーガニックス	徳島県海部郡海陽町	有機	水稲、にんじん、 なす、たまねぎ	104
92	今治市	愛媛県今治市	有機	水稲、野菜、果樹	106
95	南阿蘇村	熊本県阿蘇郡南阿蘇村	有機	水稲、そば、ごま、にんにく	109
96	豊後高田市有機農業推進協議会	大分県豊後高田市	有機	いも類、露地野菜、水稲	110
畑作					
58	黒石市	青森県黒石市	有機	水稲、そば、にんじん	72
95	南阿蘇村	熊本県阿蘇郡南阿蘇村	有機	水稲、そば、ごま、にんにく	109
96	豊後高田市有機農業推進協議会	大分県豊後高田市	有機	いも類、露地野菜、水稲	110
野菜					
57	新ひだか町みどりの食料システム推進協議会	北海道新ひだか町	グリサボ	ミニトマト、デルフィニウム	71
58	黒石市	青森県黒石市	有機	水稲、そば、にんじん	72
59	一関地方有機農業推進協議会	岩手県一関市、平泉町	有機	水稲、野菜	73
65	常陸大宮市	茨城県常陸大宮市	有機	水稲、野菜	79
67	さいたま市施設トマトグリーン栽培協議会	埼玉県さいたま市	グリサボ	トマト（施設） 果樹（キウイフルーツ、 みかん等）、露地野菜、水稲	81
68	小田原有機の里づくり協議会	神奈川県小田原市	有機	果樹（キウイフルーツ、 みかん等）、露地野菜、水稲	82
69	松川町	長野県松川町	有機	露地野菜、水稲 等	83
75	グリーンな飛騨パブリカ栽培協議会	岐阜県高山市	グリサボ	パブリカ（施設）	89
76	東郷町	愛知県愛知郡東郷町	有機	水稲、野菜	90
77	尾鷲市	三重県尾鷲市	有機	果樹、露地野菜	91

(計画段階の事例紹介であり、取組時点で内容を変更する場合があります。)

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
野菜					
82	K O B Eオーガニック推進協議会	兵庫県神戸市	有機	野菜、水稲 等	96
83	朝来市	兵庫県朝来市	有機	水稲、野菜 等	97
84	宇陀市	奈良県宇陀市	有機	野菜、水稲	98
87	江津市	島根県江津市	有機	水稲、野菜	101
90	海陽町オーガニックス	徳島県海部郡海陽町	有機	水稲、にんじん、 なす、たまねぎ	104
91	香川県グリーン農業コンソーシアム	香川県高松市	グリサボ	いちご(施設)	105
92	今治市	愛媛県今治市	有機	水稲、野菜、果樹	106
94	県央地域農業振興協議会	長崎県諫早市、大村市、 東彼杵町、川棚町、波佐見町	グリサボ	ブロッコリー(露地)	108
96	豊後高田市有機農業推進協議会	大分県豊後高田市	有機	いも類、露地野菜、水稲	110
99	土とう宝協議会	沖縄県南風原町	グリサボ	きゅうり(施設)	113
花き					
98	和泊町グリーン化推進協議会	鹿児島県大島郡和泊町	グリサボ	きく(施設)	112
果樹					
63	鶴岡田川地域グリーンな栽培体系推進協議会	山形県鶴岡市	グリサボ	おうとう、かき	77
68	小田原有機の里づくり協議会	神奈川県小田原市	有機	果樹(キウイフルーツ、 みかん等)、露地野菜、水稲	82
77	尾鷲市	三重県尾鷲市	有機	果樹、露地野菜	91
85	かつらぎ町	和歌山県かつらぎ町	有機	うめ、かき、キウイフルーツ	99
92	今治市	愛媛県今治市	有機	水稲、野菜、果樹	106
93	うきは市グリーン栽培検討協議会	福岡県うきは市	グリサボ	かき、ぶどう、日本なし、 ドラゴンフルーツ	107
地域特産物					
72	富山市有機農業推進協議会	富山県富山市	有機	水稲、雑穀(えごま)	86
95	南阿蘇村	熊本県阿蘇郡南阿蘇村	有機	水稲、そば、ごま、にんにく	109
茶					
70	川根本町	静岡県川根本町	有機	茶	84
その他					
62	にかほ市	秋田県にかほ市	グリサボ	水稲	76
66	株式会社バイオストック	群馬県高崎市	バイオマス	—	80
86	鳥取県西部地区営農型発電導入検討協議会	鳥取県境港市	地域循環	白ねぎ 等	100
88	かぶとバイオファーム合同会社	岡山県笠岡市	バイオマス	—	102
97	双日株式会社(東京都)と宮崎県	宮崎県川南町	バイオマス	資源作物(ソルガム)	111

※取組メニュー凡例

グリサボ : グリーンな栽培体系への転換サポート
 有機 : 有機農業産地づくり推進
 バイオマス : バイオマス地産地消対策
 地域循環 : 地域循環型エネルギーシステム構築
 S D G s : SDGs対応型施設園芸確立

取組事例目次（取組メニュー別）

< 令和3年度補正予算・令和4年度当初予算 >

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
グリーンな栽培体系への転換サポート					
02	青森県	青森県十和田地区、六戸地区	グリサボ	ながいも	15
03	大崎市有機農業・グリーン化推進協議会	宮城県大崎市	グリサボ	水稲	16
04	雄勝ICT協議会	秋田県湯沢市	グリサボ	ねぎ	17
06	福島県会津農林事務所農業振興普及部	福島県会津若松市	グリサボ	水稲	19
09	栃木県	栃木県真岡市	グリサボ	なす（露地）	22
10	群馬県	群馬県渋川市、安中市、 富岡市、東吾妻町、昭和村	グリサボ	こんにゃくいも	23
12	びわ再生協議会	千葉県南房総市、館山市、鋸南町	グリサボ	びわ	25
15	山梨県	山梨県全域	グリサボ	ぶどう、もも等（露地）	28
16	長野県	長野県長野市	グリサボ	きゅうり（施設）	29
17	富士山麓堆肥利用促進協議会	静岡県沼津市、富士宮市、 富士市、長泉町	グリサボ	茶	30
18	県央農業振興会議新潟米振興部会	新潟県弥彦村	グリサボ	水稲	31
19	新潟市農業SDGs協議会	新潟県新潟市	グリサボ	水稲	32
20	呉羽梨産地活性化委員会議会	富山県富山市、射水市 （呉羽梨栽培地域）	グリサボ	日本なし	33
22	羽咋市みどりの食料システム戦略推進協議会	石川県羽咋市	グリサボ	水稲	35
23	野々市市上林環境農業協議会	石川県野々市市	グリサボ	水稲	36
24	坂井地区園芸タウン推進協議会	福井県坂井市、あわら市	グリサボ	ねぎ	37
25	奥越地区園芸タウン推進協議会	福井県大野市、勝山市	グリサボ	さといも	38
28	イチゴ減農薬減化学肥料栽培推進協議会	三重県津市	グリサボ	いちご（施設高設栽培）	41
29	琵琶湖もりやまフルーツランド グリーン転換協議会	滋賀県守山市	グリサボ	日本なし	42
31	大阪府	大阪府河南町、千早赤阪村、 富田林市	グリサボ	いちご	44
37	宇陀市伊那佐東部地区グリーンサポート協議会	奈良県宇陀市	グリサボ	野菜	50
38	和歌地方スマート農業推進協議会	和歌山県和歌山市、海南市、 海草郡紀美野町	グリサボ	とうもろこし、レタス 水稲、日本なし、施設野菜 （すいか、いちご）、露地野菜 （スイートコーン、にんじん等）	51 52
39	鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会	鳥取県	グリサボ	いちご、かんきつ、きゅうり	57
44	阿南市みどりの食料システム推進協議会	徳島県阿南市	グリサボ	レタス	58
45	香川県西讃地区環境にやさしい農業推進協議会	香川県観音寺市、三豊市	グリサボ	ゆず	59
46	愛媛県	愛媛県鬼北町	グリサボ	トルコギキョウ（施設）	61
48	高知県	高知県芸西村	グリサボ	大豆	62
49	伊万里西松浦地区グリーンな栽培体系推進協議会	福岡県大川市、三潞郡大木町、 久留米市城島町	グリサボ	なし、ぶどう（施設）	63
50	J A福岡大城みどりの食料システム戦略推進協議会	佐賀県伊万里市（南波多地区、 大川地区、松浦地区）	グリサボ	ばれいしょ	64
51	島原地域農業振興協議会	長崎県雲仙市南串山町・小浜町、 南島原市南有馬町	グリサボ		

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
有機農業産地づくり推進					
05	かわにしオーガニックビレッジ推進協議会	山形県川西町	有機	えだまめ	18
08	小山市有機農業推進協議会	栃木県小山市	有機	水稲	21
11	小川町有機農業推進協議会	埼玉県小川町	有機	露地野菜	24
21	南砺市	富山県南砺市	有機	水稲、野菜 等	34
26	白川町有機の里づくり協議会	岐阜県白川町	有機	水稲、露地野菜	39
30	亀岡市有機農業推進協議会	京都府亀岡市	有機	水稲、野菜	43
32	丹波市有機の里づくり推進協議会	兵庫県丹波市	有機	水稲、野菜等	45
33	丹波篠山ワクワク農都づくり協議会	兵庫県丹波篠山市	有機	水稲、黒大豆、野菜	46
34	淡路市有機農業産地づくり協議会	兵庫県淡路市	有機	ハーブ野菜、たまねぎ、水稲	47
35	豊岡市	兵庫県豊岡市	有機	水稲、野菜	48
36	養父市	兵庫県養父市	有機	水稲、野菜	49
40	浜田市農業再生協議会	島根県浜田市	有機	水稲、野菜	53
42	神石高原有機農業推進協議会	広島県神石郡神石高原町	有機	水稲、野菜	55
43	長門市未来農業創造協議会	山口県長門市	有機	野菜	56
52	山都町	熊本県上益城郡山都町	有機	いも類、露地野菜、水稲	65
53	「ほんまもの里・うすき」農業推進協議会	大分県臼杵市	有機	露地野菜	66
54	綾町自然生態系農業推進会議	宮崎県東諸県郡綾町	有機	露地野菜	67
55	南種子町有機農業推進協議会	鹿児島県熊毛郡南種子町	有機	いも類、露地野菜	68
バイオマス地産地消対策					
01	津別町	北海道津別町	バイオマス	—	14
14	株式会社Jバイオフードリサイクル	神奈川県横浜市	バイオマス	—	27
27	株式会社ビオクラシックス半田	愛知県半田市	バイオマス	—	40
41	真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合	岡山県真庭市	バイオマス	—	54
56	株式会社八重瀬堆肥センター	沖縄県八重瀬町	バイオマス	—	69
地域循環型エネルギーシステム構築					
07	神栖市営農型太陽光発電検討協議会	茨城県神栖市	地域循環	ピーマン、かんしょ	20
SDGs対応型施設園芸確立					
13	千葉市SDGs対応型施設園芸推進協議会	千葉県千葉市	SDGs	いちご	26
47	施設園芸グリーン化促進協議会	高知県須崎市	SDGs	ししとう	60

※取組メニュー凡例

グリサポ : グリーンな栽培体系への転換サポート

有機 : 有機農業産地づくり推進

バイオマス : バイオマス地産地消対策

地域循環 : 地域循環型エネルギーシステム構築

SDGs : SDGs対応型施設園芸確立

取組事例目次（取組メニュー別）

< 令和4年度補正予算・令和5年度当初予算 >

（計画段階の事例紹介であり、取組時点で内容を変更する場合があります。）

番号	事業実施主体	地域	取組メニュー※	品目	ページ
グリーンな栽培体系への転換サポート					
57	新ひだか町みどりの食料システム推進協議会	北海道新ひだか町	グリサポ	ミニトマト、デルフィニウム	71
60	岩手県農業研究センター	岩手県盛岡市	グリサポ	水稲	74
62	にかほ市	秋田県にかほ市	グリサポ	水稲	76
63	鶴岡田川地域グリーンな栽培体系推進協議会	山形県鶴岡市	グリサポ	おうとう、かき	77
67	さいたま市施設トマトグリーン栽培協議会	埼玉県さいたま市	グリサポ	トマト（施設）	81
75	グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会	岐阜県高山市	グリサポ	パプリカ（施設）	89
78	J A グリーン近江オーガニック研究会	滋賀県蒲生郡日野町	グリサポ	水稲	92
79	中丹米振興協議会	京都府福知山市、舞鶴市、綾部市	グリサポ	水稲	93
89	世羅町循環型農業推進協議会	広島県世羅町	グリサポ	水稲	103
91	香川県グリーン農業コンソーシアム	香川県高松市	グリサポ	いちご（施設栽培）	105
93	うきは市グリーン栽培検討協議会	福岡県うきは市	グリサポ	かき、ぶどう、日本なし、ドラゴンフルーツ	107
94	県央地域農業振興協議会	長崎県諫早市、大村市、東彼杵町、川棚町、波佐見町	グリサポ	ブロッコリー（露地）	108
98	和泊町グリーン化推進協議会	鹿児島県大島郡和泊町	グリサポ	きく（施設）	112
99	土とう宝協議会	沖縄県南風原町	グリサポ	きゅうり（施設）	113

有機農業産地づくり推進

58	黒石市	青森県黒石市	有機	水稲、そば、にんじん	72
59	一関地方有機農業推進協議会	岩手県一関市、平泉町	有機	水稲、野菜	73
64	喜多方市環境にやさしい農業推進協議会	福島県喜多方市	有機	水稲	78
65	常陸大宮市	茨城県常陸大宮市	有機	水稲、野菜	79
68	小田原有機の里づくり協議会	神奈川県小田原市	有機	果樹（キウイフルーツ、みかん等）、露地野菜、水稲	82
69	松川町	長野県松川町	有機	露地野菜、水稲 等	83
70	川根本町	静岡県川根本町	有機	茶	84
71	新発田市有機農業産地づくり推進協議会	新潟県新発田市	有機	水稲	85
72	富山市有機農業推進協議会	富山県富山市	有機	水稲、雑穀（えごま）	86
73	珠洲市オーガニックビレッジ協議会	石川県珠洲市	有機	水稲	87
74	越前市有機農業産地づくり推進協議会	福井県越前市	有機	水稲	88
76	東郷町	愛知県愛知郡東郷町	有機	水稲、野菜	90
77	尾鷲市	三重県尾鷲市	有機	果樹、露地野菜	91
80	加東市農業再生協議会	兵庫県	有機	水稲	94
81	上郡町	兵庫県上郡町	有機	水稲 等	95
82	K O B E オーガニック推進協議会	兵庫県加東市	有機	野菜、水稲 等	96
83	朝来市	兵庫県朝来市	有機	水稲、野菜 等	97
84	宇陀市	奈良県宇陀市	有機	野菜、水稲	98
85	かつらぎ町	和歌山県かつらぎ町	有機	うめ、かき、キウイフルーツ	99
87	江津市	島根県江津市	有機	水稲、野菜	101
90	海陽町オーガニックス	徳島県海部郡海陽町	有機	水稲、にんじん、なす、たまねぎ	104
92	今治市	愛媛県今治市	有機	水稲、野菜、果樹	106
95	南阿蘇村	熊本県阿蘇郡南阿蘇村	有機	水稲、そば、ごま、にんにく	109
96	豊後高田市有機農業推進協議会	大分県豊後高田市	有機	いも類、露地野菜、水稲	110

バイオマス地産地消対策

66	株式会社バイオストック	群馬県高崎市	バイオマス	—	80
88	かぶとバイオファーム合同会社	岡山県笠岡市	バイオマス	—	102
97	双日株式会社・宮崎県	宮崎県川南町	バイオマス	資源作物（ソルガム）	111

地域循環型エネルギーシステム構築

61	東北発電工業株式会社	宮城県加美町、大郷町、石巻市	地域循環	—	175
86	鳥取県西部地区営農型発電導入検討協議会	鳥取県境港市	地域循環	白ねぎ 等	100

※取組メニュー凡例

グリサポ：グリーンな栽培体系への転換サポート

有機：有機農業産地づくり推進

バイオマス：バイオマス地産地消対策

地域循環：地域循環型エネルギーシステム構築

S D G s：SDGs対応型施設園芸確立

取組事例

< 令和3年度補正予算・令和4年度当初予算 >

津別町（北海道津別町）

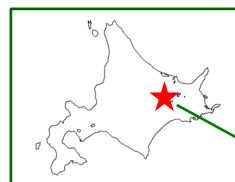
01

背景・課題

津別町は、総面積716.80km²の86%を森林が占め、林業・林産業が町の基幹産業であり、町内の木エメーカーの作品は東京2020オリンピック・パラリンピックのメダルケースに採用されるなど「愛林のまち」を世界に発信している。

平成19年にバイオマスタウン構想を制定以降、木質ペレットの生産利用、木質バイオマスによる合板工場や公共施設等での熱電供給を進めるなど、森林資源の活用や低炭素化への取組が盛んな町である。

一方で、未利用資源である林地残材は伐採後に林地に残されると鼠の営巣地となりカラマツの食害被害を助長するなど、森林所有者の課題となっている。



津別町

構 成 員

津別町

品 目

—

成果目標と達成状況

・木質バイオマスセンター

：令和5年5月稼働（令和7年度目標 原料利用量：4,242m³/年、販売量：11,446m³/年）

・バイオマスボイラー（木材工芸館）

：令和5年3月稼働（令和7年度目標 年間熱製造量：841GJ/年）

取組の成果

- 林地残材の収集、受入（買取）、チップ加工、販売等を一手に担うプラント施設「木質バイオマスセンター」を整備したことにより、バイオマス燃料として林地残材の更なる活用が図られている。
- 製造するチップについては、町内の公共施設に設置するバイオマスボイラーに使用する他、農業用資材（敷料等）として活用。また、公共施設のバイオマスボイラーは、J-クレジット制度のプロジェクト（バイオマス固形燃料による化石燃料又は系統電力の代替）に登録されている。

●林地残材の収集・受入



●木質バイオマスセンターと製造されたチップ



●公共施設（木材工芸館）とバイオマスボイラー



●チップはエネルギー用の他、農業資材の暗渠疎水材、家畜敷料、堆肥化施設の水分調整材等として活用。



普及に向けた取組

町民等が山林から出た木材や家庭から出た庭木等を木質バイオマスセンターに持ち込むことにより収入が得られる「つべつウッドロスマルシェ」を開催。森林所有者・地域住民の森林・林業に対する興味・関心を高め気運を盛り上げる場づくりや林地未利用材の有効活用と収集する仕組みづくりを行っている。

問い合わせ先

津別町役場 産業振興課 再エネ推進係 TEL：0152-77-8387

青森県（十和田地区、六戸地区）

02

背景・課題

土壌くん蒸剤（クロルピクリン剤）は、ながいもの連作による根腐病対策として効果は高いものの、その使用にはリスクがあり、過去には、防護装備が不十分であったこと、使用後に被覆しなかったこと等に起因して、人畜や農作物に被害が発生した事例がある。

このため、「緑肥を組み込んだ輪作体系」の推進により、土壌くん蒸剤の使用量削減を目指しているが、農地の確保や経営的事情により、取組が限定的となっている。

また、土壌くん蒸剤の代替農薬（ユニフォーム粒剤）は、手散布による土壌混和で効果が認められているが、省力的な技術が確立しておらず、普及が進んでいない。

成果目標と達成状況

成果目標：現状年1回使用してる土壌くん蒸剤を代替農薬や緑肥を組み込んだ輪作により、数年に1回の利用にしていく。

達成状況：栽培マニュアル及び産地戦略を策定した。

取組の成果

トレンチャー耕と代替農薬（ユニフォーム粒剤）の散布を同時に行うことができる施薬機を用いることで、作業が軽減されたほか、土壌くん蒸剤を使用した際に必要となる被覆、消毒期間の確保、除覆後のガス抜きの各工程が不要となり、大幅な省力化が可能となった。さらに、被覆が不要なため廃プラスチック排出削減につながり、土壌くん蒸剤の使用削減とあわせて環境負荷の軽減も期待できる。



トレンチャーのフロント部分に
施薬機を取り付けた事例



ユニフォーム粒剤を散布した
ながいも



十和田地区

六戸地区

構 成 員

青森県、独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所、JA十和田おいらせ、JAおいらせ、農薬メーカー

品 目

ながいも

栽培マニュアル・産地戦略

ながいも栽培で土壌くん蒸剤の使用を考えている皆様へ
－ 青森県庁ホームページ



https://www.pref.aomori.lg.jp/so-shiki/nourin/sanzen/daitaizai_manualR4.html

普及に向けた取組

啓発チラシや研修会等で代替技術を周知していく。

問い合わせ先

青森県 農林水産部 食の安全・安心推進課 環境農業グループ
TEL：017-734-9353

大崎市有機農業・グリーン化推進協議会（宮城県大崎市）

03

背景・課題

大崎地域は、世界農業遺産「大崎耕土」に認定されている。豊かな自然環境を維持しながら将来にわたって持続可能な農業を地域に定着させるため、環境保全型農業を広く普及している。一方、担い手の高齢化や不足が課題となっており、スマート農業機器の導入等によるコスト削減及び作業の効率化が重要となっている。



大崎市

構 成 員

大崎市、県普及センター、JA、農業者、農機メーカー

品 目

水稻

成果目標と達成状況

アイガモロボット導入による栽培体系転換に合わせ、3種のスマート農業機器で環境負荷低減と省力化を進める。

アイガモロボット

GPSを利用した自動航行で泥を巻き上げ光合成を抑制し除草剤の散布回数を削減。

水管理システム

スマホで水位等のデータを確認。遠隔操作で水量を調整。見回りの頻度・時間を削減。

ロボット草刈機

リモコンロボットで畦畔等の除草作業を軽労化。シェアリングでコスト削減。

取組の成果

化学農薬の使用量低減：アイガモロボットによる水田の雑草抑制

省力化：アイガモロボットによる水田の雑草抑制（除草作業を1～2回程度削減）

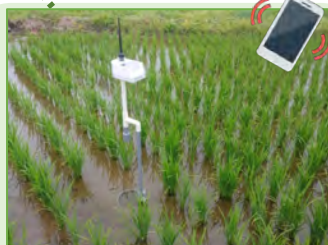
水管理システムによる水田の水位等の遠隔管理（見回り時間の削減）

ロボット草刈機による畦畔等の除草（除草作業の軽労化・コスト削減）

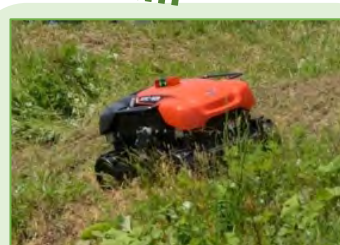
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組時期	育苗	田植え	本田管理				収穫					



アイガモロボット活用による雑草抑制



水管理システムによる遠隔管理



ロボット草刈機による畦畔等の除草

普及に向けた取組

2022年度の検証では、ほ場によって除草効果に差が見られたこと、強風の影響を受けやすいことなどの課題が判明した。また、ほ場整備後のほ場でも使用できる水管理システムが実用化されることから、みどりの食料システム戦略と協調した環境保全型農業や有機農業の推進のためのスマート農業の普及拡大に向けて、これらの課題等に対応しながら、2023年度は広域で検証を実施する。

問い合わせ先

大崎市産業経済部農政企画課 TEL：0229-23-7090

雄勝ICT協議会（秋田県湯沢市）

04

背景・課題

本地域のねぎ栽培は近年急速に拡大しており、機械化も進みつつあるが、作業負担の一層の軽減が課題になっている。先進技術の活用により省力化を図るとともに、環境負荷低減対策も組み入れ、地域における環境にやさしい農業への意識を高めていく。

成果目標と達成状況

- 自動操舵トラクターを活用した耕起溝切同時施肥機による作業工程の削減
- ドローン農薬散布による省力化
- IPMの実施による化学合成農薬成分の低減

取組の成果

- 自動操舵トラクターを活用した耕起溝切同時施肥機により、作業工程の削減と2列同時作業が可能となり、67%短縮した。
- ドローンを活用した農薬散布により、防除作業時間を97%短縮した。
- 従来のローテーション防除と比べて化学合成農薬の成分を、発生予測を用いたべと病予防では4成分低減、発生調査を用いたネギアザミウマ予防では1成分低減した。



湯沢市

構 成 員

生産者（JAこまちねぎ部会）、JAこまち、湯沢市、雄勝地域振興局農林部農業振興普及課

品 目

ねぎ

栽培マニュアル・産地戦略

雄勝ICT協議会の取り組みについて
| 美の国あきたネット



<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/71316>

①自動操舵トラクター＋耕起溝切同時施肥機



- 自動操舵トラクターの活用により、自動で正確な作業を実現。溝切・施肥の作業を2列同時に行うことで作業時間を67%短縮。

②ドローンによる防除



- ドローンの活用により、防除作業時間を97%短縮。

普及に向けた取組

- 栽培体系マニュアルに基づき、各技術の普及に向けて啓発を行った。
- べと病の発生予測については、農研機構メッシュ農業気象データの活用法を試行し、生産者へのタイムリーな情報提供のあり方を検討した。
- 自動操舵トラクター、ドローンについては、導入コスト面から現状の体系との置き換えには至っておらず、当該機械を所有する法人等への作業委託の可能性について検討する必要がある。

問い合わせ先

秋田県雄勝地域振興局農林部農業振興普及課
TEL：0183-73-5180

かわにしオーガニックビレッジ推進協議会（山形県川西町）05

背景・課題

有機農業や有機農産物に対する消費者の関心が高まっていることから、今後消費拡大が期待されるため、枝豆の有機栽培面積の拡大を計画。生産量の拡大と流通体制の構築を図るためには、生産者の高齢化等に伴う「労働力不足」や、新規有機農業者の「栽培技術取得の難しさ」等を克服する必要がある。



川西町

構 成 員

川西町、生産者（団体含む）、飲食店、県立置賜農業高校等

品 目

えだまめ

成果目標と達成状況

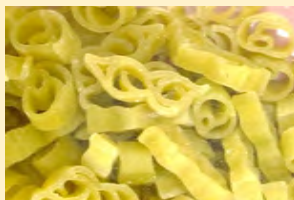
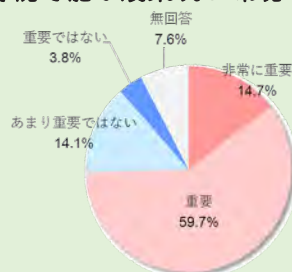
	【計画時】	⇒	【目標】	【現状（達成率）※】
○有機農業栽培面積拡大（枝豆）	2.6ha	⇒	4.6ha	2.9ha （15.0%）
○有機農業実践者数増加	14人	⇒	17人	16人 （66.6%）
○有機販売量拡大（枝豆）	7,800kg	⇒	13,800kg	8,700kg （15.0%）

※令和4年度末時点

取組の成果

- 有機農業実施計画策定に向けた検討会の実施
 - 有機農業推進のための試行的な取組の実施
 - ・有機農業に関心のある農家の潜在調査を行い、新規で有機農業に取り組む農業者の掘り起こし
 - ・マメの展示会出展や新聞へのチラシの折込み等によりイベント開催等について情報発信
 - ・新たな有機農産物の枝豆を活用した加工品試作や有機紅大豆のレストラン等での活用
 - ・有機農業に関する消費者の知見を高めるイベントの開催（500名来場）等
- ⇒以上の取組を行った結果、特に有機農業実践者数増加と販売量拡大に繋がった。

持続可能な農業及び環境に配慮した取組の重要度（アンケート調査結果（抜粋））



有機栽培した枝豆を活用したショートパスタの試作



有機農産物の販売会

普及に向けた取組

- 今後、新たに有機農業に取り組む農家に対しては、県や町、熟練農業者等が連携し栽培技術等の指導体制の充実を図り、継続的な支援を行う。
- 大規模消費地で開催される商談会等に出展し、全国への販路拡大及び町内産有機農産物の周知とブランド化に繋げる。
- 地元消費者への周知と地域外消費者に対しアプローチすることで有機農産物の消費拡大を図る。

問い合わせ先

かわにしオーガニックビレッジ推進協議会

事務局 山形県川西町産業振興課 TEL：0238-42-6641

福島県会津農林事務所農業振興普及部（福島県会津若松市） 06

背景・課題

磐梯町は平成30年から有機・特別栽培、土壌分析による施肥、認証FGAP取得等を基本とした農産物のブランド化（ブランド名：磐梯さとやまの慧み）を推進している。ブランド力のさらなる強化に向けて、環境負荷低減技術への積極的な取組や、中山間地域特有の地理的条件を克服するための省力的な先端技術を導入し、ブランドが象徴する価値に「SDGs」などを組み込んでいく必要がある。

成果目標と達成状況

- 対象品目（水稻）の作付け目標面積
：310ha（R4）→290ha（R9）
- うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積
：0ha（R4）→8ha（R9）

検証技術

環境にやさしい栽培技術 → 秋耕の実施 + 省力化に資する先端技術 → 自動水管理システム リモコン草刈機

取組の成果

- 収穫から降雪まで秋耕期間が短い磐梯町においても、スタブルカルチを活用することにより、ロータリー耕より効率よく作業が可能。
- システムを活用した水管理やリモコン草刈機の活用により、慣行の作業時間の18～71%を短縮。
- これらの技術を反映した「『磐梯さとやまの慧み』水稻のグリーンな栽培体系マニュアル」を発行。



スタブルカルチによる秋耕



自動水管理システムによる省力的な水管理



リモコン草刈機を用いた省力的な畦畔除草



磐梯町の農産物ブランド「磐梯さとやまの慧み」



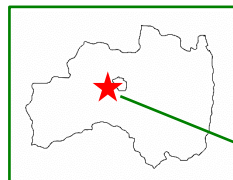
販売イベントでのPR



地元の小学生への食育活動

普及に向けた取組

関係機関と連携し、作成したマニュアル・栽培暦を広く周知し、「磐梯さとやまの慧み」の取組を拡大するとともに、「環境保全効果の高い農業を推進する町」のイメージ定着を目指す。



会津若松市

構成員

磐梯町農産物ブランド化推進会議、磐梯町、会津よつば農業協同組合、福島県

品目

水稻

栽培マニュアル・産地戦略

農業者向け情報
- 福島県ホームページ



<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36240a/magazine-hukyu.html#midori>

神栖市営農型太陽光発電検討協議会（茨城県神栖市）

07

背景・課題

日本一の面積、生産量、販売額を誇っている神栖市の主要農産物であるピーマンは、施設栽培によって周年出荷されており、電気の使用は不可欠である。

海外情勢等の外部要因によって電気代が上昇し、経営を圧迫しており、安定的かつ安価にピーマン施設へ電気を供給する方法の確立が求められている。

成果目標と達成状況

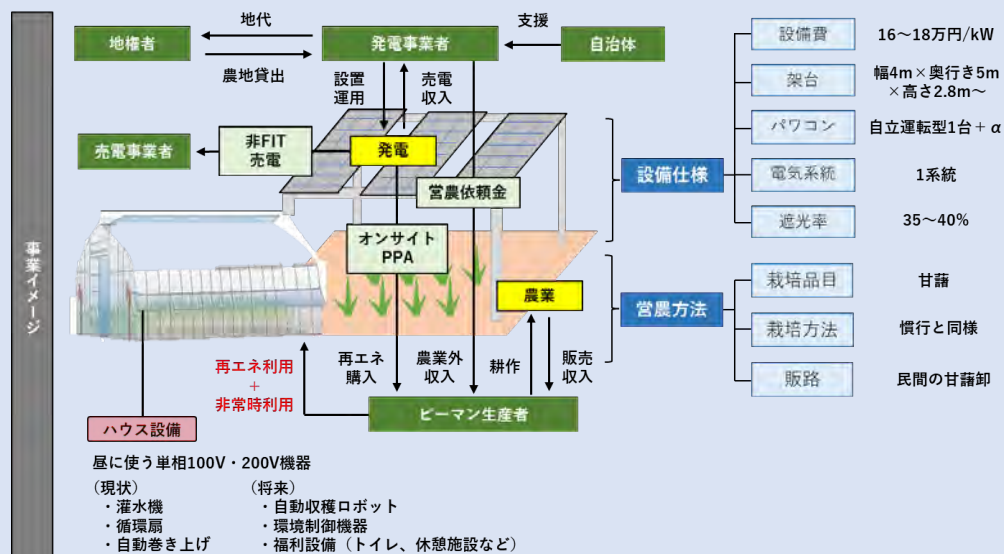
再生可能エネルギーを導入するとともに、ピーマン施設へ安定的に電力を供給するため、営農型太陽光発電のモデル構築を成果目標とした。

神栖市のピーマン生産者、営農型太陽光発電の専門家、電気事業者等を交えて地域ぐるみの話し合いを行い、以下のモデルを作成した。

取組の成果

遮光による減収等の課題から、ピーマン施設上部への太陽光パネルの設置については困難であり、ピーマン施設の隣接農地で営農型太陽光発電を行うモデルを整理した。野菜、果物、枝物等の候補品目から、収量、品質、販路等の観点で絞り込み、発電設備下での栽培品目は甘藷とした。発電した電気はピーマン施設で利用し、残りを売電することとしている。

●神栖市営農型太陽光発電モデル



普及に向けた取組

本モデルが実際に成立するかを検証するため、R5年度内に設備の設置を目指している。

設備設置後、作物の収量性、発電量、ピーマン施設での電気利用等を検証し、より神栖市に適したモデルへのブラッシュアップを進めていく。

問い合わせ先

神栖市営農型太陽光発電検討協議会

（代表 株式会社マイファーム solar-sharing_kamisu@myfarm.co.jp）

小山市有機農業推進協議会（栃木県小山市）

08

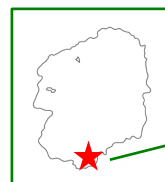
背景・課題

当市では、平成24年（9名、約4.4ha）から有機農業でコシヒカリの栽培を開始しましたが、令和元年（13名、約8.6ha）をピークに、令和3年は9名、約6haと停滞。雑草対策や、流通の確立が課題となっている他、取扱量が少ないことから消費者の購入機会が少ないことが課題。

成果目標と達成状況

- 有機農業（水稻）の面積
 - 目標 令和3年度：6ha → 令和9年度：14ha
 - 成果 令和4年度：9.5ha
- 有機農産物の販売数量
 - 目標 令和3年度：36t → 令和9年度：76t
 - 成果 令和4年度：26.6t
- 有機農業に取り組む農業者数※
 - 目標 令和3年度：11人 → 令和9年度：28人
 - 成果 令和4年度：14人

※水稻以外の品目を含む



小山市

構 成 員

生産者、JAおやま、消費者、NPO
法人民間稲作研究所、小山市他

品 目

水稻

取組の成果



除草機・畦草刈機
の導入（生産性向上）、
色彩選別機の導入
（品質向上）



実証ほ場の設置（新たに有機農業に取り組む農業者の栽培技術の確立を支援）



オーガニック講座全8回
（有機農産物等の消費拡大に向けた消費者への普及啓発）



オーガニック
アンテナショップ
設置
（購入機会の拡大）

普及に向けた取組

- ・有機農産物等の生産を拡大するため、栽培技術の確立、普及を図る。
- ・農業者・流通事業者等による意見交換会を行い、域内流通の構築を行う。
- ・オーガニック講座の開催、オーガニックアンテナショップの運営を通して、地域内外の消費者に対して消費促進を図る。

問い合わせ先

栃木県小山市産業観光部農政課環境創造型農業推進係

TEL：0285-22-9269

ホームページ：<https://www.city.oyama.tochigi.jp/sangyou-sigoto/sangyosinko/nougyou/page001793.html>

栃木県（栃木県真岡市）

09

実施年度：令和4年度

背景・課題

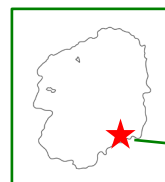
露地なすの栽培では、アザミウマ類防除について、薬剤抵抗性の発達による防除効果の低下が課題。

成果目標と達成状況

- 紫色LEDおよび温存植物（バーベナ）を活用した土着天敵温存技術＋天敵資材（スワルスキーカブリダニ）の導入により、アザミウマ類等防除のための化学農薬使用量低減及び省力化を図る実証を行った。
- グリーンな栽培体系に取り組む面積
令和4年度：0.2ha → 令和9年度：3ha

取組の成果

- 土着天敵温存技術＋天敵資材を活用することにより、化学農薬の使用回数は、慣行区では19回であるのに対し、供試区では11回と、8回削減したが、供試区と慣行区の防除効果は同等の効果を維持できた。



真岡市

構成員

栃木県農政部経営技術課、
芳賀農業振興事務所、JAはが野

品目

なす（露地）

栽培マニュアル・産地戦略

栃木県／グリーンな
栽培体系への転換の
推進について



https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/green/green_tenkan.html



○グリーンな栽培体系の実証は場

○紫色LED照射機ソーラー電源タイプ
（土着天敵誘因）

○バーベナ（温存植物）



○スワルスキーカブリダニ（農薬天敵）

普及に向けた取組

生産部会を対象にした研修会等における事例紹介や、マニュアルを活用した技術の周知を行い、地域農業者への技術の定着を図る。

今後は、安定した防除効果を得るため、紫色LEDと温存植物をセットで導入することを推進し、化学農薬の使用量を低減した総合的な防除体系を普及していくこととする。

問い合わせ先

栃木県農政部経営技術課 TEL：028-623-2313

群馬県（群馬県渋川市、安中市、富岡市、東吾妻町、昭和村）

10

背景・課題

こんにゃく栽培では、根腐病をはじめとする土壌病害対策が重要であるが、現在、土壌くん蒸剤として使用しているクロルピクリンから、環境への負荷が低い代替薬剤への転換と土壌くん蒸消毒に頼らない栽培体系の確立が課題。

成果目標と達成状況

- 現在使用している土壌くん蒸剤のクロルピクリンを、より環境への負荷が低い代替薬剤に転換するほか、野菜類との輪作を行うことで、土壌くん蒸消毒に頼らない持続可能な栽培体系の確立を目指す。
- グリーンな栽培体系に取り組む面積（輪作により土壌消毒せずに栽培する面積）
令和4年度：3.5ha → 令和11年度：15ha

※輪作体系を検証するため、事業は令和4年度～6年度の3年間実施。

取組の成果

（令和4年度）

- 土壌くん蒸剤をクロルピクリンから代替薬剤のキルパーに転換した場合、土壌くん蒸剤の使用量は25%削減。また、野菜類との輪作を行った場合、主要病害である根腐病を回避でき、土壌くん蒸剤の使用量を100%削減。
- ドローンによる追肥作業の省力化を検証。慣行栽培に比べ作業時間を約50%削減。

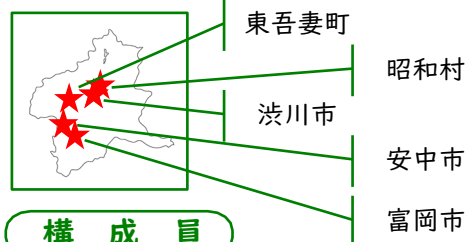


- 土壌消毒を行った慣行区と代替薬剤であるキルパーを使用した代替薬剤区で比較検証を行った。



- ドローンでの追肥作業では、作業時間が短縮でき、散布精度も高いことを確認。

実施年度：令和4～6年度



構成員

群馬県技術支援課、農業指導センター、農業者、民間企業等

品目

こんにゃくいも

普及に向けた取組

令和4年度に行った、クロルピクリンの代替薬剤キルパーへの転換や野菜類との輪作により、土壌中の微生物叢に及ぼす影響なども明らかになってきたため、さらにデータを蓄積することで、より詳細な栽培管理との相関関係の解明を目指し、栽培マニュアル作成の素材とする。

問い合わせ先

群馬県農政部技術支援課 TEL：027-226-3074

小川町有機農業推進協議会（埼玉県小川町）



背景・課題

少量多品目の露地野菜生産を中心に、生産者ごとに多様な取組が実践されているが、品質・収穫量に差が大きく産地として安定供給や品質の確保、経営の安定化などが課題となっている。

成果目標と達成状況

○有機農業の面積

令和3年度：55ha → 令和9年度：64ha

○有機農業に取り組む農業者数

令和3年度：41人 → 令和9年度：46人

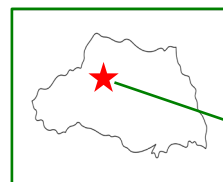
取組の成果

○有機農業の面積

令和3年度：55ha → 令和4年度：56ha)

○有機農業に取り組む農業者数

令和3年度：41人 → 令和4年度：42人)



小川町

構 成 員

小川町、小川町有機農業生産グループ、埼玉中央農業協同組合、埼玉県東松山農林振興センター 他

品 目

露地野菜



- 「1 DAY有機農業体験」で、新規就農を目指す参加者へ有機農業の説明をする生産者。



- 地元レストランなどで有機農業により生産された農産物を利用促進。



- おがわん野菜の消費拡大のため、マルシェや直売施設等での販売促進。

普及に向けた取組

当町の有機農家が新たな資材活用の実証や試験栽培を実施し、栽培講習会を開催することにより、農作物の品質や収穫量の安定化を目指す。また、当町の有機農家は、研修生の受入れ・指導を積極的に行っており、卒業生は町内外において有機農業の担い手として活躍しているため、これらの技術を各に波及させることを期待。町内事業者における加工品開発の検討や、町内商業者への有機農産物の利用意向調査等を通じた利用拡大を図り、生産から加工までを行う「有機農産物の産地」として、消費者に対しPRすることでブランド力を強化する。

問い合わせ先

埼玉県小川町 環境農林課農林グループ
TEL：0493-72-1221（代表）

びわ再生協議会（千葉県南房総市、館山市、鋸南町）

12

実施年度：令和4年度

背景・課題

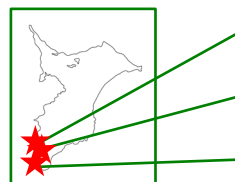
ビワ産地では、果樹カメムシ類多発年には、可販収量が著しく減少するが、主なほ場は山の傾斜地にあるため、薬剤散布に係る労力負担が大きいことが課題。

成果目標と達成状況

- 県農林総合研究センターが開発した「ビワ収穫期予測ソフト」により収穫期を予測し、適期防除を行うことによる薬剤散布回数の低減およびドローンを用いた防除による1回当たり散布時間の低減の検証を行った。
- グリーンな栽培体系に取り組む面積
令和4年度：2ha → 令和9年度：10ha

取組の成果

- 収穫期予測ソフトを活用し、適期に防除を行ったことで、薬剤散布回数を慣行の2回から1回に減らしつつ、慣行と同等程度の防除効果が得ることができた。また、ドローンでの防除により、慣行の散布時間に比べて70%以上短縮することができた。



鋸南町

南房総市

館山市

構 成 員

千葉県安房農業事務所、
千葉県農林総合研究センター、
JA安房、房州枇杷組合連合会

品 目

びわ

栽培マニュアル・産地戦略

グリーンな栽培体系
への転換サポート
(みどりの食料シス
テム戦略緊急対策交
付金)／千葉県



<https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/fukyu/gurisapo/>



○果径と気温によって収穫期を予測



○びわ山頂上からドローンで空中散布

普及に向けた取組

県内のビワ産地では、ドローンによる薬剤散布を業者に委託する農業者や、自らドローンを導入する農業者も現れるなど一定の成果がある。

今後は、農業者や関係機関に広く周知するための現地検討会や推進会議を開催し、収穫期予測ソフトを活用した適期防除とドローンによる防除を組み合わせた防除技術資料を果樹カメムシ類の発生情報と併せて配布し、地域への更なる普及・定着を図る。

問い合わせ先

千葉県安房農業事務所改良普及課 TEL：0470-22-8132

千葉県SDGs対応型施設園芸推進協議会（千葉県千葉市）

13

背景・課題

千葉市は、都市農業地域として温暖な気候を背景に施設園芸が盛んに行われている一方、その生産体系の多くは冬季に加温を要し、A重油を燃料とする旧来の重油加温機を活用した施設が主となっている。

そこで、技術実証・普及の現場拠点である「千葉市農政センター」を核に、加温に係る重油使用量の低減を行うことで環境負荷軽減を進めつつ、株元施用型炭酸ガス施用装置により収量向上も目指した産地育成を図る。



千葉市

構 成 員

千葉農業事務所、千葉市農政センター、JA千葉みらい、農業者等

品 目

いちご

成果目標と達成状況

- ①10a当たりの加温に係る重油使用量を40%低減する。（令和6年度）
⇒従来の重油使用量よりも91.2%低減（令和4年度実績）
- ②単収当たりの加温に係る重油使用量を52%低減する。（令和6年度）
⇒従来の重油使用量よりも94%低減（令和4年度実績）

取組の成果

ヒートポンプや新素材を用いた高保温性カーテンを主体とし重油加温機も併用するハイブリッド加温と、ヒートポンプのみを活用したオール電化加温の2つの加温方法を取り入れ、加温に係る重油使用量を従来よりも40%削減し、8,546L/10aとすることを目標に実証実験を行った。令和4年度の実証実験では重油使用量の削減率は91.2%、使用量は1,260L/10a（ハイブリッド加温により80.4%の削減、オール電化加温により100%の削減）となった。

①重油使用量の低減に向けた取組



図1. オール電化加温



図2. ハイブリッド加温

・オール電化実証：
ヒートポンプのみを活用し、加温に係る重油使用量をゼロとする技術体系を構築

・ハイブリッド実証：
ヒートポンプが不得手な施設内温度の上昇を補完するために重油加温機を活用し、素早く施設内温度を安定化する技術体系を構築

②収量向上に向けた取組

ヒートポンプを用いた栽培技術に加え、株元施用型炭酸ガス施用装置の活用により、従来よりも効率的に炭酸ガスをイチゴに施用し、省エネを実現しつつ収量を向上させる技術体系を構築

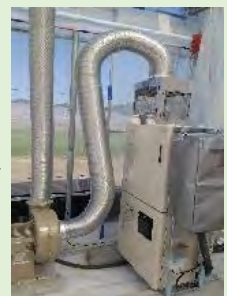


図3. 株元施用型炭酸ガス装置

普及に向けた取組

令和4年度では、収量向上を目指し、加温機の設定温度を積極的に高くした。次年度以降は更なる重油使用量の削減のため、設定温度を前年度よりも低くした場合においてもイチゴの生育や収量に影響がないか確認する。得られた結果を公表し、施設園芸の農業経営体へヒートポンプ等の普及を図る。

問い合わせ先

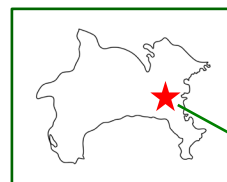
千葉市経済農政局農政部農政センター農業生産振興課
TEL：043-228-6280

株式会社Jバイオフードリサイクル（神奈川県横浜市）

14

背景・課題

食品リサイクル・バイオガス発電におけるメタン発酵残渣の処理に、多くのエネルギーが必要なことから、環境負荷が大きな課題となっている。このメタン発酵残渣をバイオ液肥等に活用することにより、環境負荷低減を図るとともに、農家の化学肥料低減や栽培コストの削減につなげる。



横浜市

構 成 員

株式会社Jバイオフードリサイクル

品 目

成果目標と達成状況

【成果目標】

- 散布試験や肥効分析により消化液の肥料効果を確認するとともに、肥料登録を行い、地域の農家等が年間80tを利用することを目指す。

【達成状況】

- 普通肥料の汚泥肥料として、発酵液（液肥）及び発酵液の脱水固形物（固形肥料）の2種類の登録を完了。
- 目標を大幅に上回る、501tの肥料を農家等に提供。

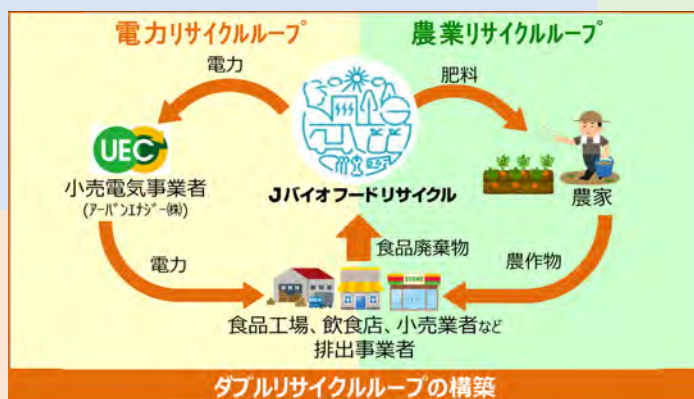
取組の成果

【普及活動】農業関連の大学教授や国立の研究機関の専門家が参加する協議会の開催、地域の農家や機械販売業者を対象とした勉強会の実施。

また、農家だけでなく食品関連事業者を対象としたパンフレットや展示会等に向けた肥料紹介パネルを作製し、講演会や見学会等において情報発信を実施。

【散布実証】4か所の農地で液肥の散布実証を実施。

【バイオ液肥等の配布】バイオ液肥ステーションを4か所に設置し、近隣住民に配布したほか、工場見学の希望者にサンプルを提供。



○ダブルリサイクルループ
食品廃棄物由来の電力と肥料を、食品廃棄物を排出される事業者の方に電力及び農作物として還元し、将来的にサーキュラエコノミーの実現を目指す。

普及に向けた取組

供給システムの確立、固形肥料の効率的な散布方法、バイオ液肥等の知名度向上が課題であり、今後は肥料を利用する農業法人の増加、経済的な供給システムの構築、固形肥料散布作業の省力化を確立するとともに、大学との共同研究により学術的な観点でバイオ液肥等の肥効を確認することで、更なる肥料利用の拡大を目指す。

問い合わせ先

株式会社Jバイオフードリサイクル管理室
TEL：045-505-7845

山梨県（山梨県全域）

15

背景・課題

実施年度：令和4～6年度

果樹園で発生する剪定枝の多くは、焼却するか粉碎して土壌に還元しているが、焼却は二酸化炭素の大気への再放出となり、粉碎して土壌に還元した枝も数年で分解され、同様に二酸化炭素として大気に再放出されることが課題。

成果目標と達成状況

○果樹園で発生する剪定枝を炭にして土に投入し、炭素を土の中に貯留するほか、たい肥の投入や不耕起草生栽培を行うことにより、大気中の二酸化炭素を削減する「4パーミル・イニシアチブ（注）」の取組を多くの生産者に実施してもらい、この取組により生産された県産果実を新たなブランドとしてPRし、地球温暖化の抑制にも貢献する。

○グリーンな栽培体系に取組む面積

令和4年度：0.2ha → 令和11年度：6.5ha

（注）4パーミル・イニシアチブとは、土壌中の炭素量を毎年4パーミル（4/1000）増やすことができれば、人間の経済活動によって放出される大気CO2の増加量を相殺し、温暖化を防止できるという考え方に基づいた国際的な取組。

- 平成27(2015)年12月のCOP21でフランス政府が提案
- 令和5(2023)年9月現在、日本国を含む780の国や国際機関が参画
- 日本の自治体では山梨県が初めて参加（令和2(2020)年4月）

構 成 員

山梨県農業技術課、農務事務所、総合農業技術センター、JA、農業者

品 目

ぶどう、もも等（露地）

取組の成果

（令和4年度）

○剪定枝量と炭化量を測定。

ブドウ 剪定枝量：平均399kg/10a、炭生産量：平均92kg/10a

モモ 剪定枝量：平均347kg/10a、炭生産量：平均42kg/10a

スモモ 剪定枝量：平均347kg/10a、炭生産量：平均44kg/10a

○無煙炭化器による炭化の場合、農家慣行方法に比べ、煤煙温度が4割程度低減。



○たい肥の投入や草生栽培により土壌へ炭素を貯留することで二酸化炭素を削減。



○果樹園で発生する剪定枝をバイオ炭化し土に投入することで、炭素を土壌に貯留。

普及に向けた取組

令和4年度の検証の結果、剪定枝のバイオ炭化について、樹種による炭素貯留量の違いが明らかになったため、令和5年度も引き続き効果的な炭化方法を検証するとともに、バイオ炭を施用した園地の施用方法・効果等を確認し、栽培マニュアルに反映させることとする。

問い合わせ先

山梨県農政部農業技術課 TEL：055-223-1619